

J A津南町（現 J A魚沼）

端境期等対策産地育成事業（令和2年度採択）

事業実施主体の概要		事業参加の経緯・背景
所在地	新潟県津南町	国営苗場山麓開発事業により整備した800haの優良農地でキャベツ、だいこん等露地野菜を中心に栽培してきたが、実需者からの安定調達ニーズに十分対応できていない状況にあった。また、近年の高齢化により作付面積が減少傾向となっていた。これらを解決するため、機械化が可能なキャベツを対象に機械化一貫体系を確立し、その生産基盤を強化することを図ることとした。
対象品目	キャベツ	
事業対象面積	15.6ha	
成果目標	①出荷割合22.4%増加 ②出荷量105.0t増加	

産地での取組

生産・流通の構造改革	作柄安定
・10～11月の播種に適した品種の導入（秋冬作型の導入による端境期集荷） ・播種プラント、定植機、収穫機の導入 ・大型の鉄コンテナをリース導入 ・J Aの雪室の活用（定時定量出荷）  鉄コンテナの導入	・プラウ耕、心土破碎の実施（土壌改良、排水対策） ・かん水パイプの設置（地温安定、保水対策） ・pH改良剤、たい肥の施用（土壌改良）  心土破碎（排水性向上対策）

事業参加による産地の変化

成果目標の達成状況	産地の変化
① <u>対象出荷期間における出荷割合の確保</u> （R元年）0％ ▶▶▶ （R4年）43.2％ ② <u>対象出荷期間における出荷量の増加</u> （R元年）0 t ▶▶▶ （R4年）181.2t	・家計消費用出荷主体の産地であったが、加工・業務用キャベツに取り組んだことにより、出荷物の品質の平準化を生産者が意識するようになった。 ・品質を向上させるため、生産者・J Aの技術が向上した。 ・近年は新規生産者が増加し（R5年～：4経営体増）、作付面積も増加に転じている（H25年：7.4ha→R5年：21.8ha、作付面積を1.5倍に増やした生産者もあり）。